

**自立
したい**

7

勇氣出し念願の旅行

看護師ら同行のツアーリに参加

2009年12月6日午前7時50分。熊本市の熊本交通センターからバスが出発した。大分市で関サバ・関アジを食べるツアーリだ。参加客は6人。

途中でバスが止まる。主催する旅行社「旅のよろこび」の名

が書かれた黄色ジャンパーを着たボランティアが駆け寄り、車いすに乗った年配の女性を乗せる。女性は関節リウマチ。「新鮮な関サバ・関アジの真っ黒い目が見たくて」と笑った。

次の待ち合わせ場所にいた男性客は脊髄小脳変性症で、手足に障害がある。手すりにつかまり、足をひきずつてバスの中へ。ボランティアが支える。つまずきそうになり「すいません」と繰り返し、席に座る。「食べることが大好き」と笑った。

バスは大分県豊後大野市の「原尻の滝」に着いた。脊髄損傷でふだんは車いすを使う女性が、手足に補助具を着け、歩いてバスを降りた。なじみの添乗員が声をかける。「こないだの旅行の時より、良くなつてます?」。女性は笑顔で「旅行に行くたび、足が動く気がする。車いす、要らなかつたね」。

滝は高さ約20m、幅約120m。緒方川が勢いよく注ぐのを見て、熊本市の鈴木尚子さん(66)が涙を流した。肺を患い、約30年病院に通つた。空気の悪い場所や人込みを避け、バスに

きで参加しました」と笑う。バスが動き出すまで、「だれもせかしたりいらいらしたりしない」。

バスは1時間から1時間半ごとに、長めのトイレ休憩をする。障害者にとって外出先でのトイレは大きな問題だ。体温調節が難しい障害者のために毛布を積み込み、看護師やヘルパーも同行した。

バスは大分県豊後大野市の「原尻の滝」に着いた。脊髄損傷でふだんは車いすを使う女性が、手足に補助具を着け、歩いてバスを降りた。なじみの添乗員が声をかける。「こないだの旅行の時より、良くなつてます?」。女性は笑顔で「旅行に行

きを出し参加した。今日をスタートにしたい」と話した。
尚子さんの涙に気づき、隣に歩み寄りじっと手を握る女性が

旅が楽しかったれい子さんは貯金を始めた。食品加工工場で、病院や学校の給食用にジャガイモやタマネギの皮をむく。

「旅のよろこび」のツアーリは初めて出会った客同士が打ち解ける姿がよく見られる、と同社の宮川和夫代表(46)はいう。

「障害者や高齢者のお客様はみな、悩みに悩み、勇気を出して申込んでくる。観光地をめぐることより、時をともにし、人と人が触れ合う旅なんです」。日帰りのツアーリを終え、れい子さんと尚子さんは、熊本市の味噌天神前で下車した。尚子さんは「ありがとうございます。また会おうね」と手を握り、れい子さんも「また会おうね」と握り返した。尚子さんは涙をぬぐい、手を振つて歩き出した。れい子さんは「うれし涙を見せてくれたね」とほほえんだ。



鈴木尚子さん(右)の手を握る亀浦れい子さん=大分県豊後大野市の原尻の滝

いた。「旅のよろこび」のツアーリに3回目の参加となる亀浦れい子さん(34)だ。

知的障害があり、障害者施設で暮らしていた。人見知りで、初対面の人と接するのが苦手だ

った。09年8月、東京ディズニーランドへ行くツアーリに申し込み、「知らない人はばかりで、参加するのが不安」と相談した

ら、添乗員が「大丈夫ですよ」と励ましに来た。

3回目の今回、れい子さんは

ボランティアの女子学生に自分から話しかけた。添乗員が「私は雨女。雨が降らないか不安」と話すと、れい子さんは「私が晴れ女だから大丈夫よ」と返して笑わせた。

「旅のよろこび」のツアーリは初めて出会った客同士が打ち解ける姿がよく見られる、と同社の宮川和夫代表(46)はいう。

「障害者や高齢者のお客様はみな、悩みに悩み、勇気を出して申込んでくる。観光地をめぐることより、時をともにし、人と人が触れ合う旅なんです」。日帰りのツアーリを終え、れい子さんと尚子さんは、熊本市の味噌天神前で下車した。尚子さんは「ありがとうございます。また会おうね」と手を握り、れい子さんも「また会おうね」と握り返した。尚子さんは涙をぬぐい、手を振つて歩き出した。れい子さんは「うれし涙を見せてくれたね」とほほえんだ。

(この連載は土井恵里奈が担当しました)

IIおわり